

幼稚園の 子どもたち



かぞくてなつまつりにいきました。てづくりのうちわをもっていきました。みんなでたいことおんがくにあわせておどりました。あつかったけど、とてもたのしかったです。

▲かねくら はるきさん（ひまわり幼稚園 年中）

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

●年間テーマ「親学ノススメ」 ●今号テーマ「豊かな心を育む本との出会い」

親学 ノススメ

絵本の読み聞かせで 楽しいひとときを

愛知教育大学 教授 小川 英彦

幼児期は、一生を通した読書習慣の礎を築く時期でもあります。親や周りの大人が、絵本の読み聞かせを行い、子どもといっしょに読書を楽しみ、本に親しむ機会を多く設けることが大切です。本号では、本に親しむことを通して、豊かな心を育むことについて考えてみましょう。

第一に、読み聞かせは子どもの心を育てます。大好きなお母さんやお父さんのおひざに座り、楽しいお話を読んでもらえることが絵本の読み聞かせの醍醐味です。子どもの豊かな心を育てるのにつけてですから、ぜひとも積極的に、できるだけたくさん読んであげましょう。お母さん、お父さんの優しい声は、子どもの心を穏やかにし、快い気分させ、豊かな情緒が育つようになります。

第二に、心を穏やかにするのも読み聞かせのもつ魅力です。読み聞かせをするときの優しい声は、子どもの精神状態を落ち着かせます。さらに、「寄り添う」ということが、子どもの安心感はもちろん、自己肯定感を高め家族の

絆や信頼関係を強めることにつながります。

親子のスキンシップを伴った読み聞かせでは、最初は親が子どもといっしょに喜んだり、悲しんだり、怖がったりすることで、いろいろな感情を学びます。そのうちに子どもは絵本から多くの感情を読み取れるようになり、子どもの心はどんどん豊かになっていくのです。

このように、読み聞かせは心を育て、心を豊かにしてくれる上に、想像力を育て、集中力がつき、知的好奇心が育ち、語彙が増え、読解力が身につく、ひいては学力に影響していくわけですから、良いことづくしです。

ぜひ読み聞かせで絵本が大好きになった子どもといっしょに楽しいひとときを過ごしてください。



家庭の日 図画作品



かぞくみんなで かぶとむしをようちゅうからそだてました。せいちゅうになったときは、とてもうれしかったです。はじめは、こわかったけど さわれるようになりました。また そだてたいです。

▲いけだ あつみちさん（猪高幼稚園 年長）



キャンプでバーベキューをしました。おとうさんがいっぱいおにくをやいてくれました。おねえちゃんがいちばんよくたべました。とてもたのしいキャンプでした。

▲まつざき はるとさん（西山台幼稚園 年長）

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

絵本にふれることは一生の宝物になる

松元幼稚園 園長
川澄 依子

絵本は感性を磨くといわれています。幼いころ、絵本を読んでもらってワクワクドキドキした経験はありませんか？

私たちの幼稚園では、昼食の後などによく絵本の読み聞かせを行います。「今日はなんの絵本かな〜？」と、子どもたちに話しかけると、思い思いにお気に入りの絵本の名前を答えてくれます。絵本のページを一枚、また一枚とめくり、話しはじめていくと、子どもたちは、目をキラキラさせながら聞き入ります。

子どもは、好奇心の塊です。“それは何？”という疑問から探求心が生まれ、“それをやりたい！”と思う気持ちから行動力が湧きます。ただ、幼児期に実際に行動に移せる範囲には限りがあります。その点、絵本の世界ならどこへでも行けて、どんな事でもできるので、夢中になるのでしょう。そのような疑似体験の中で楽しいと思ったことや、嬉しいと感じたことなどの思い出は一生の宝物になるはずです。そうした体験が子どもたちの想像力を豊かにし、心も育ててくれるのでしょう。

子どもは親から愛を教わります。親の愛情はとても大切で、愛されないことほど、辛いことはありません。我が子だからこそ、そして子どもにとって一番身近な人だからこそ、細やかな愛情をもって接して欲しいと思います。共通の話題を一緒に楽しむことにも絵本は役立ちます。私たちも子ど

もたちと共感しながら、愛を込めて絵本の読み聞かせをしています。ぜひご家庭でも読み聞かせを通してスキンシップを深め、宝物を増やしてください。

最後に、皆様に見てもらいたい絵本を紹介します。赤ちゃんの研究をもとに、東京大学の開一夫教授が描かれた『もいもい』という絵本です。泣いている赤ちゃんでも、視線をくぎ付けにして、泣き止んでしまうというイラストで話題となりました。この本のキーワードは、「目が合うこと」だそうです。ぜひこの本を手にとって、お子様に見せてあげてみてください。



絵本から広がるおいしい時間

植田幼稚園 保護者
伊藤 直子

我が家には食べることが大好きな小5と年長の娘がいます。「ホットケーキが食べたいなあ」娘たちからそんな声があがると、絵本「しろくまちゃんのほっとけーき」（こぐま社）の出番です。絵本を開き、同じようにエプロンをして、フライパンやボウル、たまごや牛乳、粉などを用意します。「たまごを わって きゅうにゅう いれて……」親子でページをめくりながら、絵本と同じようにホットケーキ作りを進めます。フライパンにホットケーキの生地を流して、みんなで一緒に声に出して、「ぼたあん どろどろ

ぴちぴちぴち……ふくふく くんくん ぽいっ はい できあがり」と、出来上がるまでの様子を絵本と見比べながら過ごします。そして、出来たてのホットケーキにバターやメープルシロップをたっぷりかけていただきます。娘たちも大喜び。食いしん坊ぞろいの我が家では、こんな風に絵本を楽しんでいます。

他にも、「きょうのおやつは」（福音館書店）という鏡付きの絵本では、立体的なホットケーキ作りを疑似体験しています。自分の子ども時代にはなかった新しいアイデアあふれる絵本も親子で楽しんでいます。

最初は子どものために読んでいた絵本でしたが、いつ

の間にか、自分自身もいろいろな絵本に出会い、絵本を楽しむ素敵な時間を過ごしています。また、植田幼稚園では読み聞かせサークルに入り、月1回、子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。学年を超えて、子どもたちとお母さん方との交流ができる楽しい時間です。また、娘たちの未来も、彩り豊かでありますように願い、絵本を通して生まれるたくさんの出会いを大切に過ごして欲しいです。



子育て Q&A

なぜ読み聞かせが大切か

絵本は言葉や知識を身に付けるためだけではなく、子どもの心に栄養を与えとも言われています。しかし、絵本をただ与えればよいのでしょうか。今号では、なぜ読み聞かせが大切なのかを改めて考えてみましょう。

ある園での一場面です。「もこもここ」「にょき」と、かわいらしい声が聞こえてきます。声の主は3歳児。先生が読み聞かせをして本棚に置いた絵本（「もこもここ」谷川俊太郎・作、元永定正・絵、文研出版）を自分で取り出してきただけです。園児机の上に絵本を立て、まるで目の前に友達がいるかのように、「もこ…」と言いながらページをめくっていきます。その口調は、先生にそっくり。大好きな先生に読んでもらったこの絵本がお気に入りになったようです。先生のまねをしながら、友達と一緒に絵本を見るうれしさやおはなしの楽しさ、擬態語の面白さなどを味わっているのでしょう。

また、子どもはおうちの方に絵本を読んでもらうことも大好きです。大人が本を与えるときは、あかちゃん絵本、ことば遊びの絵本、ものがたり絵本、科学絵本など、子どもの発達に合わせながら、いろいろなジャンルから本を選びましょう。子どもは、そこから自分で好きな絵

本を見つけていきます。そして、子どもが絵本を持ってきて、おうちの方のひざの上に座ろうとしたら、ぜひ受け入れてく

ださい。読むときは声色を変えたり、読み間違いを気にしたりする必要はありません。子どもと同じ方向から絵本を見ることで、子どもが見ている絵本の世界を見ることができ、子どものつぶやきも聞こえます。そうすると、子どもが何を楽しんでいるのか、何に興味関心を持っているのかを感じることができるよう。また、子どもがいつも同じ絵本を持ってきて読んでほしいとせがんだら、「もういい」と言うまで読んであげましょう。そうすることで、子どもは絵本の世界観を十分に楽しむだけにとどまらず、納得いくまで一つのことに関わる満足感を味わうでしょう。何より、ひざのぬくもりや声のあたたかさなどを感じながら、愛されている実感をもつのです。

絵本が心の栄養となるには、読み聞かせする大人の存在が不可欠なのです。

名古屋市教育委員会 指導室



こんなほん あんなほん

「絵本から広がる楽しい時間」

『ウサギのすあなに いるのはだあれ?』

ジュリア・ドナルドソン／文
ヘレン・オクセンバリー／絵
とたによこ／訳
徳間書店刊行



「おいらははらべこびんがぶりん。ウサギのみみがだいこうぶつ。ちよきんときて、くっちゃうぞ」。ウサギが巣穴の前で聞いた、声の正体は…!? テンボのいいリズムミカルな文章が、聞き手も読み手も楽しませます。

『三びきのやぎの がらがらどん』

アスピヨルンセンとモーの北欧民話
マーシャ・ブラウン／絵
せたていじ／訳
福音館書店



やぎとトロルの迫力ある対決に、子どもたちの表情にも緊張感が漂います。素朴でシンプルな筋立ては幼い子にも分かり易く、弱い者が知恵を使って困難を乗り越える結末に子どもたちは満足するでしょう。

『しっぽのはたらき』

川田健／文
藪内正幸／絵
今泉古典／監修
福音館書店



動物の尾は、その役割に応じて特徴的な形をしています。クローズアップした尾の絵をヒントに何の動物が当てっこするなど、読み聞かせを通して子どもとのやり取りが楽しめます。

読み聞かせの醍醐味

読み聞かせは、聞き手の子どもはもちろん、読み手の大人にとっても楽しいものです。お話の世界に浸っている子どもの表情は、とても豊か。それを正面から見られる「特権」が、読み手にはあるのです。時折ある「もう1回読んで」の声は、その本が子どもの心をつかんだ証です。将来の「宝物の1冊」になるかも知れません。繰り返し読んであげて下さい。

家庭での読み聞かせに、難しい決まりはありません。ご自分が読んで楽しいと思った本を、素直にゆっくりと読んであげましょう。保護者が楽しいと感じた気持ちは、声ののって子どもの心に届きます。10月は「なごやっ子読書月間」です。この機会に、読み聞かせを通じて親子で楽しい時間が過ごせるといいですね。

名古屋市鶴舞中央図書館
児童担当 中村・新藤・野崎・前田

TEL:052-741-9811 FAX:052-733-6337

「なごやっ子読書イベント」のご案内

10月は「なごやっ子読書月間」です。

子どもたちが読書に親しむことの大切さや楽しさなどについて知っていたため、10月19日(土)に幼児・児童とその保護者向けの読書のイベントを開催します。

東海テレビのアナウンサーによる歌と音楽を交えた絵本の読み聞かせステージや、子どもと一緒に絵本を楽しむ極意を伝授する保護者向けの読み聞かせ講座など、普段の読書とは違った本の楽しみ方を体験していただけます。

また、子どもたちに人気のキャラクター「かいけつゾロリ」との記念撮影会や、おすすめの絵本の貸し出しを行う一日図書館、指とスタンプを使った簡単お絵かきコーナーもあります。

ぜひご家族でお越しください。

開催期間 10月19日(土)

会場 ナディアパーク
2階アトリウム・イベントスペース
(中区栄三丁目18-1 市営地下鉄矢場町駅徒歩5分)

費用 無料

時間 13:00~16:00

主催 なごやっ子読書活動推進実行委員会

問い合わせ先 名古屋市教育委員会生涯学習課管理係
電話 972-3252 FAX 972-4178



家庭の日 図画作品

※図画作品の年齢は制作当時のものです。



みんなでびくにつくへいきました。しーそーがいちばんたのしかったです。たくさんあそんで ゆうがたになりました。また、みんなでいきたいなとおもいました。

▲なかむら まほさん(第二富士幼稚園 年長)



おとうさんとおかあさんといっしょに うみへいきました。おそとはとてもあつかったのですが うみはつめたくてきもちがよかったです。おいしいすいかもたべて とてもたのしかったです。

▲かわせ そうたさん(慶和幼稚園 年少)

「家庭教育相談事業」開催のお知らせ

市立幼稚園において保護者を対象に専門家による子育て相談会を開催しています。ぜひお出かけください。

開催日時、会場等は名古屋市公式ウェブサイトでもご覧いただけます。



年	月	日	区	幼稚園名	電話番号	年	月	日	区	幼稚園名	電話番号
令和元年	10月	21日(月)	中川	常磐	361-7133	令和元年	12月	3日(火)	緑	神の倉	876-6490
	10月	25日(金)	東	大幸	722-1546		12月	9日(月)	北	楠西	902-2250
	10月	28日(月)	中川	常磐	361-7133		12月	9日(月)	緑	鳴子	892-2616
	10月	29日(火)	緑	大高	621-6033		12月	11日(水)	北	楠西	902-2250
	11月	5日(火)	西	比良西	502-7441	令和2年	12月	18日(水)	緑	桶狭間	621-6018
	11月	5日(火)	昭和	吹上	731-8766		1月	16日(木)	瑞穂	高田	871-3808
	11月	7日(木)	東	第一	961-5506		1月	17日(金)	中川	春田	301-3610
	11月	8日(金)	東	第一	961-5506		1月	17日(金)	守山	二城	793-3851
	11月	8日(金)	名東	梅森坂	703-6644		1月	20日(月)	中川	はとり	432-1221
	11月	11日(月)	瑞穂	高田	871-3808		1月	23日(木)	千種	第二	731-3510
	11月	13日(水)	緑	神の倉	876-6490		1月	23日(木)	昭和	吹上	731-8766
	11月	15日(金)	緑	鳴子	892-2616		1月	24日(金)	名東	梅森坂	703-6644
	11月	19日(火)	千種	第二	731-3510		1月	29日(水)	北	報徳	913-5321
	11月	19日(火)	緑	大高	621-6033		2月	12日(水)	中川	春田	301-3610
	11月	29日(金)	北	報徳	913-5321		2月	18日(火)	西	第三	561-2348
	11月	29日(金)	中川	荒子	353-4936		2月	19日(水)	北	おりべ	914-2806
	12月	2日(月)	中川	荒子	353-4936		2月	21日(金)	名東	猪高	773-2756
	12月	2日(月)	名東	西山台	701-5286		2月	26日(水)	東	大幸	722-1546

編集後記

保護者の皆様や編集委員の皆様の協力を得て今年度の「幼稚園の子どもたち」NO.2を発行することができました。ご協力ありがとうございました。

今号は、「豊かな心を育む本との出会い」をテーマに取り組みました。

絵本や紙芝居の読み聞かせは、子どもたちの豊かな心を育むために重要な役割を果たすと言われています。絵本や紙芝居の世界で驚いたり、感動したりすること、登場人物などの喜びや悲しみ、怒りや優しさなどの気持ちに触れることは、心の成長につながります。家庭や幼稚園で行う読み聞かせは、読書の習慣化や本に親しむためにも非常に大切なことです。本号で紹介した事例が、家庭や幼稚園での読み聞かせの参考になれば幸いです。

子どもたちが本を大好きになり、子どもたちの心が豊かに育つことを期待しています。

*ご意見ご感想をお待ちしています。係までお寄せください。

●担当/生涯学習課社会教育係
電子メールアドレス
a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。